



The Comet

The Newsletter of K. International School Tokyo

Volume 23 | Issue 3 | March 2020



今号では...

- ▶02...KIST@Facebook
- ▶03...Japanese New Year Party
- ▶09...K3B食生活
- ▶09...節分
- ▶10...G2高齢者との関係構築
- ▶13...社会的・感情的スキル
- ▶17...セカンダリーウィンターコンサート
- ▶22...CISSMUN 2020
- ▶24...KISTでのBrain Bowl
- ▶25...Jordan Hattar氏がG9を訪問
- ▶26...KISTクリケットーズ
- ▶28...G12味の素工場への校外学習

「今いる場所から始めよ。自分の持っているものを使え。できることをするんだ。」
—Arthur Ashe

学校長より

インターナショナルであることの本当の意味とは？

Xenophobia noun

xe·no·pho·bia | \ ,ze-nə-ˈfō-bē-ə

: 外国(人)に対して恐れや嫌悪感を抱くこと



IBミッションステートメント

国際バカロレア(IB)は、多文化に対する理解と尊敬を通じて、平和でより良い世界の実現のために貢献する、探究心、知識、そして思いやりのある若者の育成を目的としています。

学習者像(learner profile)を中心として、IBプログラムは国際的な視野を持つ人間の育成を目指しています。人類に共通する人間らしさと地球を共に守る責任を認識し、より良い、より平和的な世界を築くことに貢献する人間を育てます。

これらのことからIBの目標は、理解と敬意を通して、異なる国家や民族そして文化の間に繋がりを作り、コミュニティ内のxenophobic(外国(人)嫌悪)な態度を防ぐことであることがわかるでしょう。このような不安定な状況においては、故意に人々の不安を煽る行為やメディアのセンセーショナルリズムに惑わされず、私たちがどれくらい偏見を持たない心を保てるかが試されます。

新型コロナウイルスの流行によって、恐れやパニックだけでなく、多くの望ましくない社会的影響が引き起こされてしまっているようです。17年前に起こったSARS流行当時と同じように、一つの特定の集団がその帰属する民族であるがゆえに非難を受けています。今回は、中華系の人々が人種差別を受けたという報告が世界各地でされています。先日、新型コロナウイルスの拡散によって、私の母国であるカナダにおいても、このようなxenophobicな態度が増えていることに関する記事を読んだときは、大変悲しく感じました。

インターナショナルなコミュニティとして、今回のような困難な状況においては、団結力を持ちお互いを支えあうことがとても重要です。武漢の人々に指をさして非難するのではなく、彼らをサポートしましょう。この学校のコミュニティは様々な国籍や民族の人々で構成されています。それぞれ異なる場所から集まっているかもしれませんが、共通する部分も多くあります。

次のページに続く

重要な日程



2020年3月

- 16-20 (K1-G10) No classes due to coronavirus
- 20 (K1-G9) Student-led conferences [Cancelled]
- 20 (G10) DP options session [To be rescheduled]
- 20 Spring university fair [Cancelled]
- 20 (G12) DP Visual Arts exhibition [To be rescheduled]
- 21-29 Spring vacation
- 30 School resumes for all students

2020年4月

- 6 School photographs (for new and absent students)
- 9-10 School musical [Dates to be confirmed]
- 10 (K1/K2/K3) Cross country
- 23 (G1-G10) KIST cross country meet [New date]
- 24 (G12) Last day of classes
- 27-May 1 (G12) DP study week (G12 teachers available)
- 27-28 (G9) Camp
- 29 School day
- 29 (G5) PYP exhibition [New date]
- 29 (G8) MYP Community Project exhibition
- 30 ISTAA cross country invitational

2020年5月

- 1-22 (G12) DP examinations
- 2-10 Golden Week vacation
- 12-13 (G1-G4) English diagnostic testing
- 15 (G5) Day camp

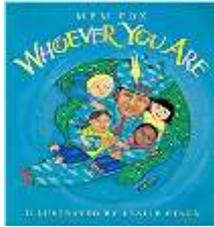


WE ARE A
CIS
ACCREDITED
SCHOOL

PYP | MYP | DP

前ページの続き

Whoever You Areという本において著者のMem Foxは、自分たちのような人間が世界中にいるということを思い出させます。それぞれ違うところはありませんが、私たちの心や笑顔、そして感じる痛みは同じです。以下のリンクから、Mem FoxによるWhoever You Areを読む時間を少し取ってみてください。



Web <https://www.youtube.com/watch?v=f0J6tKoT53Y>

アメリカの公民権活動家であるRuby Bridgesは、以下のように言っています。

「人種差別は、とても残念なことに、子供たちに伝えられ受け継がれているものだと思います。子供たちは、嫌悪や人種差別について初めは何も知りません。しかし、彼らはすぐに学んでしまいます。私たち大人という存在から」

ウイルスの終息に向けて戦う中で、共に協力し合い、多様性を尊重し、助けを必要とする人々をサポートしましょう。私たちはそれぞれ、他者に対するポジティブなことやネガティブなことを広める選択肢を持っています。国際的なコミュニティの一員として、自分たちを本当に国際的な人々として考えるのであれば、この流行による影響を受けている人々に思いやりの声をかけ、サポートする存在になることができるはずです。

Dr. Kevin Yoshihara
Head of School



KIST@Facebook

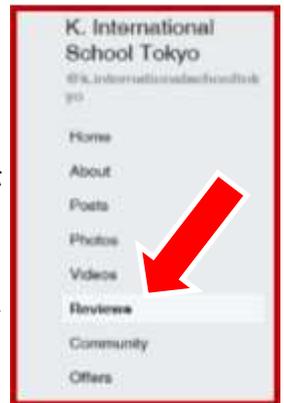


KISTの公式Facebookページがオープンしました！

昨年12月の時点で、KISTが公式のFacebookページをオープンしたことを発表できることを嬉しく思います！このページでは、生徒の経験と成功体験を紹介し、KISTコミュニティの現在および以前のメンバー、および東京や世界中の国際スクールコミュニティの他のメンバーとつながることができます。いくつかのハイライトには、レッスンや課外活動、イベントなどに参加している学生や他のコミュニティメンバーの写真が含まれます！ただし、学校の公式発表やイベント情報は、主にE-Communicationsを通じて引き続き発行されることに注意してください。

FacebookにはKISTロゴを使用している他のページがあり、現在それらを削除する過程にあります。混乱を避けるため、下記のリンクを使用して、以下に示すページを探してください。

KISTコミュニティのメンバーを招待して、ページの「いいね」や「フォロー」を行い、毎週KISTで起こる新しい刺激的な最新情報を入手してください。下の画像に示されているボタンを自由に使用してください。Facebookは、ページにレビューを残すオプションも提供しています。KISTコミュニティのメンバーがレビューを残すことで、KISTでの良い経験を国際スクールコミュニティと共有できればうれしいです。レビューは、右の画像に示すようにメニューオプションを使用して行うことができます。



KIST Facebookページについてご質問がある場合は、お気軽にinfo@kist.ed.jpにお問い合わせください。今後、ソーシャルメディアを通じてコミュニティをさらに共有していくことを楽しみにしています。

Miranda Liu
Facebook
Administrator



こちらからKIST Facebookページにアクセスできます。
www.facebook.com/pg/k.internationalschooltokyo

Japanese New Year Party

毎年恒例のJapanese New Year Partyが、2020年1月29日に開催されました。今年は初めての試みで、World Cultures Dayに関連して開催されました。最初、どのように2つのイベントを同日に開催するか心配していましたが、結果すべて順調に終わることができました。天気にも恵まれ、暖かい天気のおかげでジャケットさえ必要ありませんでした。日本語科教員を含め、参加者全員がこのイベントを十分に楽しんだことでしょう。

昨年同様、武蔵川部屋の相撲力士の皆さんにもイベントに参加いただき、生徒たちと模擬相撲を行いました。また、生徒たちに餅の作り方を実演し、餅つきを手伝ってくれました。KIST、KIPSの両生徒たちにとって、伝統的な餅つきを体験し、力士の皆さんと相撲をとれる絶好の機会となりました。

毎年、KIST、KIPSの保護者ボランティアの皆さんがこのイベントをサポートして下さりますが、生徒たちにお餅をふるまいながら、他の保護者の方々と触れ合う良い機会になっていると思います。保護者ボランティアの皆さんにとっても互いに良い関係を築き、KISTのすばらしいコミュニティ作りになると考えております。保護者ボランティアの皆様なしには、このイベントを大成功に終わることは出来ませんでした。この場でお礼申し上げます。また、日本文化や伝統を紹介するこのイベントを来年も開催することを楽しみにしています。そして、保護者ボランティアの皆様並びに武蔵川部屋の皆様、かけがえのないサポートをしていただき改めて感謝いたします！

The Japanese Instructional Team



エレメンタリースクールニュース

世界はそんなに悪くない！

私が小さかった頃は(ずっと昔のことですよ！)、ニュースは主に三つの方法で伝えられていました。新聞、ラジオ、そしてテレビです。家に毎日届く新聞があり、ときにはテレビで夕方のニュースを見ました。車で移動しているときには、ラジオでニュースを聞くこともありました。最近ではそれも大きく変わり、24時間の報道ステーションに報道番組、そして新聞だけでなく、オンラインアプリやスマートスピーカー、終わりのないニュースフィードなど、子供たちは様々な方法で一日の間に何度もニュースを見聞きすることができます。

American Academy of Child & Adolescent Psychiatry (米国児童青年精神医学会)によると、自然災害や悲劇的な出来事、そして犯罪などのニュースは、子供に不安や心配を与えてしまうそうです。しかし、親として、子供たちがそのようなネガティブなニュースを受け止めることができるように手助けする方法があります。

まず一番大切なのが、世界はそんなに悪くないということに気づくことです！ Psychology Todayによると、ニュースは私たちに「ハリケーン・津波・地震・火災などの自然災害や、人の悪事といった、苦しみと悪」について伝えることが多いそうです。また、世界の悪い面に注目することが多いと指摘しています。この理由の一つとしては、ジャーナリストたちは自分のことを、社会を崩壊と間違い、そして悪から守っている存在であると思いがちであることが挙げられます。彼らは社会の悪い面に注目を集めることで、それらを解決する手助けができているのです。私たちに伝えられていない、たくさんの良いことが、この世界にはあるということを感じておくことが大切です。

親として、私たちに何ができるのでしょうか？ひとつは、子供と一緒にニュースを見て、それについて話すことで、ニュースを見ることによるネガティブな影響を少しでも減らすことができます。Kids Healthによると子供の怖さを落ち着かせるためには、最近の出来事について親と子供が話し合い、子供がその出来事について考える手助けをしてあげることです。「これについてどう思う？」「なんでこんなことが起こると思う？」のような質問をすることもおすすめです。

他にも、日々目の当たりにすることができる素敵な物事の写真を見せることもできます。例えば、晴れた日の快晴の空。子供たちの安全を守る活動をしているボランティア。保護施設から保護犬を引き取る人。他人のためにドアを開けてあげる人などです。このリストに終わりはありません！また、ポジティブなニュースに注目したウェブサイトも多数あります。以下はいくつかの例です。

- [Sunny Skyz](#)
- [Good News Network](#)
- [Positive News](#)



ネガティブなニュースに騙されて、希望はないのだと信じ込んでしまいがちですが、周りにはあるポジティブな物事に目を向

けることも可能です。この世界には、良いところがたくさんあります。良い物・経験・人々・行動・場所。私たちにそれはその美しさに気づくためのトレーニングが必要なのです！

Dr. Kevin Yoshihara
Elementary School Principal



参考資料:

- Aacap. (2019, January). News and children. Retrieved from https://www.aacap.org/AACAP/Families_and_Youth/Facts_for_Families/FFF-Guide/Children-And-The-News-067.aspx
- KidsHealth. (n.d.). How to Talk to Your Child About the News (for Parents) - Nemours KidsHealth. Retrieved from <https://kidshealth.org/en/parents/news.html>
- Landau, I. (2018, August 28). Is the world really that bad? Retrieved from <https://www.psychologytoday.com/us/blog/finding-meaning-in-imperfect-world/201808/is-the-world-really-bad>

G5ギターの名手

現在の音楽の探究の一環として、G5の生徒たちはギターを学び始めました。これはKISTの新しい取り組みで、生徒達が授業外、休み時間にギターの練習を熱心に行っているのを見るのは素晴らしいことです。



PYPニュース

KISTライティング診断テストと「ライティングの6つの特徴」

ライティング診断テストの変更についてご報告いたします。従来診断テストは年2回、8月にベースライン値を測り、5月に生徒の1年の進歩を測りました。診断テストには英国のナショナルカリキュラムの過去問題を使用してきました。このテストは生徒のスコアを的確に測ることに適していましたが、内容に関しては古く、KISTのカリキュラムを反映していませんでした。



上記の点を改善するため、去年の6月からGrade 5の診断テストを、Edexcelテストに変更しました。Edexcelテストは従来のテストと同じく英国のカリキュラムですが、毎年更新されており、外部の機関が採点をします。Grade 5の診断テスト準備として、Grade 1からGrade 4の生徒に、同じようなテストを実施することを決定しました。年2回のテストの代わりに、より小規模なテストを年3回：11月にベースラインを、3月、5月に学習の進歩を測ります。ライティングの題材は、授業で習っていることに直接関連しているものです。この新たなテストによって、カリキュラムの柔軟性が増し、授業のUnit of Inquiryを反映することができます。

作文のスキルを向上するために、「ライティングの6つの特徴」というフレームワークを使用します。



- **アイデア**
一つのトピックスについて明確なメッセージを伝える
- **文章の整理**
論理的な順番でアイデアを述べる
- **声**
感情的な文章で読者の興味を引く
- **ワードチョイス**
的確な単語を適切な場所に使う
- **文章の読みやすさ**
筋の通ったアイデアと多様な文型を使って読みやすさを増す
- **文法**
スペリング、句読点、大文字使用など文法のルールを守る

新しいEdexcelの診断テストはこの6つの特徴に基づいて採点されます。生徒には2つのスコアが与えられます：「フォーム・コミュニケーション・目的」(文章の整理、アイデア、ワードチョイス、声に関連する)と「文法・句読点・スペリング」(文章の読みやすさと文法に関連する)。

Edexcelと「ライティングの6つの特徴」を使用することで、バランスのとれた、ライティングに深い関心をもつ生徒たちに成長することを期待します。

「ライティングの6つの特徴」についてはこちらのリンクをご覧ください。

Web <https://www.smekenseducation.com/6-Traits-of-Writing.html>

Oliver Sullivan
PYP Coordinator



幼児教育ニュース



KISTでは大変恵まれたことにたくさんの国からご家族を迎えています。この国際色豊かな特色を子ども達の学びに生かすため、保護者の方々が色々な活動を手伝いに各教室に来てくれます。今回はメキシコ、ブルガリア、中国、韓国、日本、コロンビア、イギリス、レバノン、フィリピン、チュニジアの方々です。

いつも、子ども達の学びのためのご協力、ありがとうございます。

Eri Ozawa
Early Childhood Coordinator (K1-K3)/
K1B Teacher



Bulgaria



Korea



Colombia



China



Tunisia



London



Japan



DEAR



International food



Lebanon



Parent professions

K1芸術を通して想像力と創造性

「How we express ourselves」の単元では、生徒たちは音楽や芸術を通して想像力と創造性を表現するさまざまな方法を調査し、探求しました。彼らが参加したいくつかのアクティビティをご紹介します。

- 彼らの才能とスキルを示す：
 - ⇒ 様々なジャンルの音楽を聴きながら、ステージで歌ったり踊ったりします。
 - ⇒ イーゼルに描く時、壁画の作成、ブロックや粘土などでユニークな作品を作成する時、さまざまな道具や材料を使い想像力を発揮します。
- 次のような多くの著名なアーティストや彼らの作品に触発された作品の描画と絵画：
 - ⇒ ミケランジェロ：テーブルの下で逆さまになって絵を描きます。
 - ⇒ ジョージ・スーラの点描画法：綿棒を使用して点の技法で絵を描きます。
 - ⇒ ワシリー・カンディンスキーの「いくつかの円」：さまざまなサイズの筒を使用して紙に円を描き、円の色塗りをして抽象的な絵を作成します。
 - ⇒ アンリ・マティスの「ハサミで描く」切り紙絵：さまざまな形の色紙を黒い紙の上に切り貼りして作品を作成し、出来上がった作品にタイトルをつけます。
 - ⇒ アンディウォーホルのポップアート：両親や家族の他のメンバーの手形を色塗りした枠にそれぞれ貼り付け、その手形上に黒く塗った手を押し当て手形を重ねます。
 - ⇒ パブロ・ピカソのゆがんだ顔の絵：紙粘土を成形し、ゆがんだ顔を作ります。

Claire Yoneyama
K1A Teacher



K2Aにおける異文化の探求

K2Aは、「時間と空間の中の私達」の探求学習の一環として、世界とその場所をよりよく理解するために、さまざまな文化を探求しました。彼らはそれぞれの大陸の3つの異なる国について学び、動物、食べ物、衣服、建築など、そこで何がみつけられるかについて知識を段階的に築きました。彼らは、さまざまな場所の知識を示す世界地図を作成し、“summative assessment task”の中で協力的スキルと創造性を実証しました。彼らは個別に作成した図を一緒に作成した地図の背景上に貼り付け、グループとして作成したものを発表しました。この活動とユニットは、彼らに世界についての興奮を与え、新しい場所を探検する興味を与えてくれたと願っています!!



Catherine Wells
K2A Teacher



K2 It's Not a Box

今年、それぞれの探求学習の単元を開始するにあたり、K2の生徒達は、段ボールや様々な材料を使用して、各単元の中核になるアイデアと関連するオブジェクトを協力して作成しました。

私たちの最初の単元「Who we are」では、K2が身体について学びながら、リサイクルされた資源（段ボール、ペットボトル、紐、ロール紙）から人体を作成しました。2番目の単元「Where we are in place and time」では、世界中の場所や文化について学び、ベトナム中秋節の獅子舞を段ボールやリサイクルカラーペーパーで作成しました。そして現在の単元「How we express ourselves」では、K2の生徒達はお話しをより具体的に理解を深めるために、段ボールに色塗りをして小道具を作成しました。

一年を通して、私たちは素晴らしい本『Not a Box!』を何度も読み返しました。これは、生徒達が創造的に様々な素材の可能性を新しい視点で捉えるのに役立つ素晴らしい本です。単純な対象物を見て、新しい使い方を考えられるという事は、エンジニアが困難な課題を達成するようなものです。

問題を解決し、限られたリソースで物事を構築することで、生徒は優れた批判的思考スキルだけでなく、単純で簡単な解決策がない問題に取り組み続ける自信も育みます。KISTでは、このように「箱にとらわれない創造的な」思考を高く評価しています。



Axel Norwood
K2B Teacher



K3B食生活

K3Bの三つ目のUOI、「Who we are」のために、私たちは様々な人々の食生活について学ぶことができました。

調査のさいに生徒達は、

- 「はちみつは砂糖なの？」
- 「糖分か油脂、どのグループに入るの？」
- 「どうして人は多様な食生活をするの？」
- 「野菜を食べるとベジタリアンになるの？」

など様々な素晴らしい質問をしました。



授業中の写真をご覧ください。エリカのレシピを使って、なめこ味噌汁を作ったり(ベジタリアン版も作りました)、手巻き寿司を作ってみんなの好き嫌いを学んだり、人々の食生活についてインタビューをしたりしました。さらに、砂糖水とはちみつ水の食べ比べをして、蔗糖と果糖の違いを学びました。そして、フードピラミッドを使って、重要なビタミンやミネラルの名

前を覚えて、栄養士のテストも受けました。

みなさん、規則正しい食生活を心掛けてください！

Christie Chung
K3B Teacher



節分

節分は、伝統的な日本の祭りで、人々は身を守るために「鬼」にローストした大豆を投げ、そして新年の幸せを呼び込むためにいくつかの豆を食べます。歴史的には、鬼が来て人々の持ち物を壊したり盗んだりするなど、人々の家にいたずらを引き起こし、大豆は邪を払い不運から守ると信じられていました。

KISTでは、K1からK3の生徒たちが2020年2月3日に節分を祝いました。本物の豆を使う代わりに、生徒たちは紙と粘土で作られた手作りの「豆」を投げながら、伝統的なフレーズ「鬼は外、福は内！」(邪を払い、幸せを呼び込む!)を叫び当日訪れた「鬼」(バスの運転手のご厚意で)を退治しました。最初、数人の子供たちは鬼を少し怖がっていましたが、一度始めてみると熱中して参加しました。安全上の理由で本物の大豆は食べませんでしたが、子供たちは鬼を追い回しながら楽しみました。

子どもたちは皆、日本の伝統文化を体験する機会を得て、鬼を退治し楽しみました。来年もまた節分で豆まきを楽しみにしています！



G2高齢者との関係構築

「How we organize ourselves」のユニットでは新しい試みとして、G2の生徒たちは地元の高齢者ケアセンター、深川やすらぎの園を訪問し、居住者と関係を築いてきました。センター長の沢山氏と一緒に、私たちは地域コミュニティの特定のニーズを満たすために1年を通してプロジェクトに協力してきました。私たちの目的は2つあります。1)センターの居住者の心を温め、元気な生徒たちの笑顔と熱意で日々を明るくすること、2)生徒たちに本物のケアと共感を実践するために本物の体験を提供することです。

このユニットの中心的な考え方は、「個人がグループの働きに与える影響」です。各訪問に先立ち、生徒たちはグループで整理し、居住者と共有する活動や体験を考案しました。生徒たちが過去に共有したいと思っていた多くの活動例として、折り紙、歌、手品ショー、描画クラスなどがあります。このプロセスを通して、生徒たちは衝突を避けてスムーズな協力を実現する為に自分のグループ内でどのようにコミュニケーションをとるのかだけでなく、居住者と彼らの経験を共有し、コミュニケーションをとる方法も学びました。生徒たちは、個人がグループの働きに影響を与えることを学ぶ機会を得ました。

さらに、高齢者ケアセンターのスタッフも私たちのためにいくつかの共同活動を準備してくれています。生徒たちと居住者は共に高齢者にとって重要なリハビリテーション運動に参加しました。生徒たちは協力して大きなゴムボールを一列に並べてそのボールを渡す競技を行うと、興奮し感情が高まり熱く盛り上がりました。生徒たちは、居住者と一緒に活動することをとても楽しみました。

これらの本物の経験を通して、生徒たちに共感、思いやり、敬意を育てることを望みます。2年生がこの新しいプロジェクトに熱意を持ち思慮深く取り組む姿を見ることは教師にとって非常に驚くべきことです。後年、サービス活動をする時、この経験が将来の活動に影響を与える思い出となることを願っています。

**Aya McDonough and
Timothy Vodden**
G2 Teachers



エレメンタリーELS

パートナーと一緒に英語を習う

KISTでは、パートナーと一緒に学習をすることが多くあります。記事内の写真は、お子さんの通常のクラスの風景です。グループワークと同じく、ペアワークは、個人だけでは発達できない学習能力を身につけることができます。英語を学びながら、**社交性**や**コミュニケーション能力**を向上したり、新しい**トピック**や**コンセプト**を学べます。しかしグループワークと比べると、ペアワークはよりシンプルな社交場と会話になります。

生徒にとって、一対一で会話を交わすことは、学習をしているトピックに関連する英単語を、無理なく、自分達のペースで学べる理想的な機会です。さらに、パートナーと話すことで、交互に話し合い、自分のアイデアを相手のアイデアに繋げる会話力も伸ばせます。これらのスキルを複数人数での会話で使うのは難しいため、パートナー形式が最も適しています。

しかし、ペアワークをすることだけで、こういったスキルが自動的に発達するとは限りません。先生、ELSスタッフが文章スターター、画像、キーワードなど様々な会話のきっかけを設けることで、ペアワークをより勉強深いことにすることができます。そして保護者の皆様も、お子さんと母国語で学習しているトピックのお話をするなどして、お子さんの会話力を高めることができます。ご自宅で予習復習をすることで学校でのペアワークの準備となり、新しく習った英単語をおさらいすることができます。お家でのランゲージサポートは必要不可欠です。皆様のご協力に感謝いたします！

Rachel Parkinson
Elementary ELS Coordinator/
G5 ELS Instructor



LiaとYi Qiao (K3B)が一緒に読んでいる本について考えています。



RuryとSoren (G2B)が、present indicative tenseについて知っていることを互いに教え合って、一緒に学習をしています。



AllenとFuwa (G5A)と一緒に2次元の形の習性と、形の説明をする言語力を高めるために、それぞれ描いた絵をチェックしています。

MeiとRiu (K2A)がパソコンの勉強のために、ペアで学習内容を話し合い、チームワークスキルを練習しています。



エレメンタリーSRC



電車でのマナー

小学校の生徒会メンバーは現在、公共交通機関のエチケットに焦点を当てたプロジェクトに取り組んでいます。さらなるアドバイスを求め、JR職員の方々に来校頂き、電車でのマナーについて説明してもらえないかをお願いしました。私たちは、JRの代表者と会議を開き、どのようなトピックをとりあげるのかを話し合いました。JRの代表者たちが親切に、私たちのニーズに合うように議論に基づいてアセンブリを行ってくれたことに感謝します。

それは責任あるコミュニティメンバーになるために、互いに他の人とのスペースを尊重しながら、より助けを必要とする人々を思いやり、支援する必要があるなどIB学習者像やPYPの特性を強化する絶好の機会でした。

また、地震が発生した時や、安全ではないと感じる状況での緊急事態の対処方法も学びました。

また、親切にも共に使用したスライドを共有して下さったので、このアセンブリでのメッセージをぜひお子さんと一緒にスライドを通して考えて下さい。

Web <https://www.kist.ed.jp/files/pdf/0205.pdf>



世界中にはさまざまな文化が存在するため良いとされるマナーも育った国や環境によって異なる為、どのようなマナーが日本で良いかを理解するのは困難かもしれません。このスライドが皆様にとって明確な情報と導きになることを願っています。

**Oliver Sullivan and
Kana Furnival**
Elementary SRC
Mentors



LEAPニュース



こんにちは、KISTコミュニティの皆様！このスクールイヤーの半分が過ぎたとは信じられません！*The Comet*のこの号では、学生が前学期にLEAPに参加したいいくつかを共有したいと思います。



- Ms. WangとMs. JoannaのK3英語サポートクラスでは、生徒は音節とよく出てくる単語を使って、より長い文章の読み書きに取り組みました。
- Ms. Amandaと私は、G1生徒との疑問符や感嘆符などの他の形式の句読点とともに、大文字を使用して完全な文を作成することに目を向けてきました。
- Ms. RinaのG2英語サポートの生徒は、UOIで紹介された様々なトピックについて自分の考えやコンセプトを広げました。
- Ms. ParvathyのG3の生徒は、推論の作成、副詞の使用、原因と結果の発見、結論の導きに焦点を当てて、リテラシースキルを磨きました。
- Ms. Yukoの英語サポートクラスでは、「世界はどのように組織されているか」というユニットで導入された複雑な単語の定義に注意を払い、これらの単語の意味を分析して議論することにより、自分自身を整理する方法を学びま

した。

- Ms. Rachelは、G5の生徒と一緒に読解戦略を使用して、エネルギーに関するユニットに関連する図式を理解できるようにしました。

セメスター2の生徒向けに、さらに多くの刺激的で魅力的なアクティビティを用意しています！

セメスター2のLEAPクラスは1月20日に始まりましたが、次のURLより申し込むことができます。

<https://kisted.sharepoint.com/CA/SitePages/LEAP.aspx>

引き続きご支援いただきありがとうございます。

Miki Kanai
LEAP Coordinator/G1A ELS Instructor



社会的・感情的スキル

なぜ子供の社会的・感情的スキルを伸ばすことが重要なのでしょうか？

多くの人は、子どもたちの学力を向上させることを優先事項と考え、社会的・感情的スキルの発達に常に念頭にあるとは限りません。

しかしながら、子どもたちがより良い学校生活を送るためには、積極的な社会的及び感情的な発達がとても重要です。これらのスキルは、子どもたちの自信と共感、そして有意義かつ持続的な友情とパートナーシップを発展させる能力に影響を及ぼします。彼らはまた、私たちの周りにいる人々を大切にすることがどれほど重要であるかを感じとります。さらに、社会的及び感情的な発達は、子どもたちの学問的発達に直接的な影響を与えます。

ご家庭でできる、お子さんの社会的・感情的スキルの分野の発達をサポートする5つを以下にご紹介します。

自己認識

お子さんが自分の感情や感覚を認識する際に、彼らの態度に注意を払い、面と向かって多くの時間を過ごして下さい。感情と行動の関連性を理解できるように感情を見極め、それがどの感情なのかを示してあげて下さい。

自己管理

お子さんの感情を管理し、他人にどのように反応するかを見つけるために、お子さんをサポートします。クラブ活動に参加することは、これらのスキルを構築する上で有益です。

怒りや欲求不満に対処するには、落ち着くために有効な特定のルーティンを教えます。

責任ある意思決定

お子さんが目標を理解できるようサポートしてください。年齢に応じたタスクを与えることで自尊心を高め、成功した時に彼らの選択を誉めます。

関係

他の人の気持ちを認識し、他の人の意見を尊重し、違いを理解する上でお子さんをサポートするには、本を読んで話し合い「このキャラクターはどう感じるの？」、「あなたならどうするの？」等の質問をしましょう。

社会的認識

特にチームワークを要するクラブ活動に参加することは、お子さんが良い聞き手となり、問題解決のスキルを学び、いつ、どのように謝れば良いのかを知るのに役立ちます。

これらのスキルは、子供の頃から10代や大人の生活まで持続する必要があるため、できるだけ日常生活に取り入れることをお勧めします。

お子さんの社会的・感情的スキルについて質問がありましたら、お気軽にご連絡ください。

Kana Furnival
Elementary Student Care Coordinator



KIPSニュース

From the P1 classroom...

こんにちは。P1クラスでは毎週水曜日、朝のサークルタイム後に日本語の Specialist classをおこなっています。KIPSでは年間カリキュラムが8 Termsで構成されていて、現在はTerm 5が始まっています。

日本語の時間が始まる際に保育士が元気よく、「P1クラスのみなさんおはようございます」と挨拶をします。入園当初はその姿をじっと見ていただけでしたが、最近は子どもたちも一緒に挨拶をしてくれるようになりました。

Termテーマに沿った絵本や歌、季節(行事や文化)などを学んでいます。最初の頃は保育士が絵本を読んでいる姿をじっくりと見ていたり、歌っている姿にからだをゆらしてリズムを取っていた子どもたちでしたが、最近は絵本を読んでいると知っている絵や物などは一緒に声を出して言う。知っている歌が流れると保育士の真似をして一緒に踊り、知っている歌詞のフレーズを言うようになり、日々成長を感じ嬉しく思います。季節(行事や文化)を学ぶ際は、子どもたちが分かりやすいように大きめのイラストを用意し、説明もゆっくりとした口調で丁寧話すようにしています。節分の時には導入で鬼のお面を見せてから節分について話し、本物の柀の葉っぱ触れました。初めての柀の葉っぱに興味を持ち、わくわくしながら触れた子どもたちでしたが、尖っている部分は痛かったようで保育士に「痛い」と話したり、痛い表情で見せる子どももいました。その後はP2クラスと一緒に鬼のパンツを踊り、鬼が登場するとびっくりしていた子どもたちでしたが、頑張っ鬼に向かって「鬼は外」とボールを投げていました。

日本語クラスでは、月に1度図書館からボランティアの方をお呼びし、おはなし会を開催しています。歌やふれあい遊び、パネルシアターなどで学習を深めています。子ども達はみんなこのおはなし会を楽しみにしており、20分間集中して参加をしています。当初は緊張して表情が固かった子ども達も、最近では笑顔でハイタッチをしに行く姿も見られるようになりました。普段一緒に園生活を送っている保育士以外の方への社会性も発達し、上手に「ありがとう」「Thank you」と挨拶をしています。

また、先月KISTのWorld Cultures Dayに参加し、日本の伝統行事であるお餅つきを体験したり、たくさんのお相撲さんと触れ合う機会に恵まれました。一緒に写真を撮ったり、相撲をとったりしてイベントを楽しみました。大きくて優しいお相撲さんに、子ども達も泣いたり笑ったりと、いろいろな表情でや情を表現してくれるのを見て、彼らの成長を感じています。



Hitomi Shimizu
P1 Teacher



From the P2 classroom...

1月に新入生を迎え、10人そろって2020年をスタートしました。冬休み前には出来なかったことがどんどん出来るようになり、とても成長を感じています。玩具の貸し借りも、「Can I use it?」「Please」と友達とコミュニケーションをとりながら一緒に遊べるようになりました。

Term 4ではShapes and Colorsをテーマに保育を進めてきました。Termの始めには何となく形や色をわかっていたものの、しっかりと答えることが出来ませんでした。Termの終わりが近づくとつれてしっかりと答えられるようになり、室内や戸外で見つけた形や色について「I found green!」などと指をさして知らせてくれるようになりました。形や色についての歌も覚えて、踊りながら歌ったり、散歩中に口ずさんでいる様子も見られてとても微笑ましいです。子ども達が喜んで歌っている「Dancing Shapes」をSpring Concertで披露したいと思います！

これから半年、子ども達の更なる成長を見守り、サポートして参ります。

Yoshimi Machida
P2 Teacher



MYPニュース

MYP生が学びを振り返るためのポートフォリオを作成

毎年のstudent-led conferences(生徒主導型面談)は、MYP生が自身の学習と成長について家族と話し合う絶好の機会です。今年の面談はコロナウイルスの関係で形式を変えて行います。詳細は後日お知らせいたします。

一旦立ち止まって、自身の強みや弱みについて省みる能力はIB教育と学習の重要な要素です。「自らを省みる」は、IB学習者像の一つです。教師は日々の授業や、単元の終わりに生徒が自らの考えを深め表現するよう促しています。

アドバイザーの授業時間を3~4週間使って完成させたMYP



G7がキャンプと、自分達で夕食を作った経験から学んだことを振り返ります

ポートフォリオは、生徒が今年のMYPでの様々な経験を振り返るためのものです。評価のための4つの分野-学習達成度、学校生活、MYPの必須要素、学習の整理-は、生徒が学習の複雑さを知る良い機会となります。ポートフォリオは生徒が自身の良いところ、改善すべきところ、そしてこれまで達成してきたことについての結論を証明するものになるのです。

そしてこれまでの学習の最後の段階が、student-led conferencesで家族とポートフォリオを共有する事です。生徒は一年間の学習成果を共有できるよう、アウトライン・概要を使います。

Robert White
MYP Coordinator



G6Aが今年の初日からの変化について振り返ります



G8がEnglishの「ロミオとジュリエット」の評価課題でのパフォーマンスを通して学んだ事を振り返ります

日本語俳句コンテスト

G6からG10の日本語クラスの生徒を対象に俳句コンテストが開催されました。異なる言語レベルのクラスの3人の生徒が1つのチームとなりコンテストに参加しました。テーマは俳句と書道を使って日本の冬を紹介することでした。生徒達は各学年から最高作品のチームを選びました。各学年の受賞者は、Mr. CoweとMr. Roseから表彰されました。



Jiani (G6A) と Mr. Cowe



Kaito (G8B) と Mr. Rose



日本の俳句コンテストの受賞者の皆さん、おめでとうございます！

- G6 – Jiani, Lander, Rigel
- G7 – Feiru, Donna, Mano
- G8 – Nishka, Kaito, Hina
- G9 – Nehal, Tomoko, Mariko, Hriday
- G10 – Minn Thant, Rina, Satoshi

DPニュース

DPの生徒たちは、DPの二年間の中で非認知能力を身に着けるために取り組んできました。質の高い幼児教育プログラムによる、幼児への短期的と長期的な影響について調べた、ハイスコープ・ペリー幼児教育の研究の結果によると、以下の九つの非認知能力を持っていることが人生の成功において重要であるということが分かりました。

- 自己認識
- 意欲
- 忍耐力
- 自己抑制
- メタ認知ストラテジー
- 社会性
- レジリエンスと対処能力
- 創造性
- ビッグ・ファイブ(開放性・誠実性・外向性・協調性・精神的安定性)

これら非認知的能力の多くはIB Learner ProfileとDP Subject Groupの狙いに組み込まれています。例えば、Group 5(数学)の狙いの一つは、論理的、批判的、創造的な思考力、そして問題解決に取り組む根気と粘り強さを養うことです。この狙いには、三つの非認知能力が組み込まれています(創造的な思考力・忍耐力・レジリエンスと対処能力)。また、数学者の業績や数学の応用によって

生じる道徳的、社会的、および論理的な影響を捉えられるようにする狙いは、ビッグ・ファイブ(外向性・開放性)と繋がっています。

KISTは、G12の終わりの最終DP成績において高いスコアを獲得する事、そしてそのための過程は、生徒がDPの狙いを成し遂げる中で、認知能力と非認知能力の両方を身に着けているという証明になると考えています。そのため、すべての学習者が学業において優秀な成績を収めることを追い求めています。

G11とG12の生徒たちは、若い世代にとって重要であると判断された九つの因子から、自分がDPの間に身に着けたい、または磨きをかけたい非認知能力を一つか二つ選ぶように指示されました。彼らはDP Coordinatorとのミーティングを各セメスターに一度行い、それらの非認知能力の向上と今後の目標について話し合います。

以下は、DPの生徒たちによる、非認知能力を身に着けるための目標設定をする課題についての振り返りです。

Hiro Komaki
DP Coordinator



Yui (G12A)



DPと今後の人生での成功を確かなものにするための、DP Coordinatorによる非認知能力への取り組みはとても大きなことでした。DPのカリキュラムにも、認知能力と非認知能力を育てるためのIB Learner Profileが存在します。認知能力と学業における成功は、レポートカードや成績で把握し、振り返ることができません。しかし、非認知能力が全体的な学習力において重要な役割を果たしているというのは知りませんでした。KISTのDPコースで学習する中で非認知能力は日々使っていますが、それらについて振り返るチャンスはあまりありません。そんななか、私はセメスター1で、いくつかの非認知能力をすでに身に着けている一方で、創造性と社会性においては足りていないことに気が付きました。セメスター1では、ほとんどの科目で「個人的重要性、関心、好奇心」を評価基準として含むInternal Assessment (IA)に取り組みました。私は、これは自分の創造性を育てるための機会であると考え、ユニークかつ魅力的で、普通とは少し違った方法で様々なトピックについて調べてみました。その結果、創造性に関する評価において、とても高い評価を得ることができました。社会性についてはセメスター1で設定した目標をまだ達成できていないため、引き続きセメスター2で取り組もうと思います。私は、社会性の向上のために、G12 Graduation Committeeに参加する事を決め、イベントの企画や学年全員の参加など、良いコミュニケーションを通してリーダーシップを取りたいと思っています。セメスター2で社会性を向上させるために引き続き取り組むのが楽しみです。

Anya (G11A)



私 が今までのセメスターを振り返り、取り組もうと思った非認知能力は精神的安定性です。ちょっとした失敗や障害があると、すぐに弱気になることがあるため、この非認知能力の向上に取り組むことに決めました。私は、期待を下回る成績や個人的な問題に直面した時など、物事の悪い側面にばかり注目して悲観的になってしまふ傾向がありました。満足のいかない成績を取ることを「失敗」として考えてしまい、自分の能力に自信がなくなり悲観的に考えてしまっていました。しかし最近の話をすると、今年度の初めに76%だった生物の平均点を、セメスター1の期末試験で15%も上げて91%にすることができました。これは、精神的な安定性の向上による結果であると自信をもって言えます。気持ちを安定させるために、初めは友達を癒しの場として頼ろうと考えました。もちろんこれも効果はありましたが、一番自分を変えることができたのは自分自身でした。まず、物事をきちんと整理したり、趣味を楽しむなどの小さなステップから始めることで、今までよりも楽観的に考えられるようになり、それが気持ちの安定にもつながりました。自信を身に着け、過去の失敗を成功に繋げるという考え方をできるようになり、これがとても成長に繋がりました。このセメスターでは、様々な場面において重要になる社会性に取り組みたいです。どのようなスキルにおいても、それを向上させるための正しい方法はありませんが、常に意識しておくことが大事です。そのために、私は自然とそれを身に着けるために役立つ習慣ができるようになりました。

セカンダリーウィンターコンサート



冬休み前日の12月13日(金曜日)に学校の体育館で**Secondary Winter Concert**を開催しました。多くのご家族や生徒が才能ある生徒のパフォーマンスをサポートするために集いました。G6~10の「B」クラスの生徒がアンサンブルパフォーマンスを行いました。パ

フォーマンスの内容は音楽の単元と、「冬」というテーマにそって選択しました。生徒は音楽の授業で一ヶ月間準備を行いました。踊りの才能がある生徒はクラスパフォーマンスの振り付けも担当しました。

クラスアンサンブルの合間には学校外で練習・準備をしたボランティア生徒によるソロパフォーマンスも行われました。オーケストラクラブ、IGCSEバンド、太鼓クラブのような音楽関連のクラブも毎週の練習の成果を発表しました。

4名の素晴らしいMC、**Riu (G6A)**、**Saanvi (G9B)**、**Ketan (G9B)**、**Minn (G10A)**がコンサートをさらに盛り上げてくれました。**Daigo (G10B)**率いるバックステージチームも、チームワークとリーダーシップでコンサートのスムーズな進行に貢献してくれました。コンサートは生徒たちが音楽で学んできたことを反映させるとともに、長い休暇の前に生徒に季節を感じてもらえたと思います。

今回のコンサートにお越しいただけなかった方は**6月12日の金曜日**に船堀ホールで行われる**End-of-Year Concert**に是非いらしてください。

Makiko Duran
Secondary Music Teacher



奨学金制度



Bronze Award
(25% tuition discount)
2 students

KIST特待生奨学金 (KIST Scholars' Awards)

毎年基準を満たしたG8からG11の生徒はKIST Scholars' Awardsに出願する事ができます。このScholars' Awards (奨学金)には4つのカテゴリーがあり、優秀な学力を有し、他の生徒への模範となる態度を取り、コミュニティに顕著な貢献をするという学校のミッションを体現する生徒に与えられます。

Silver Award
(50% tuition discount)
2 students

今年度初旬に行われた、文書での出願及び教師の推薦書を含む厳しい選考と、選考に合格したすべての生徒を対象とした個別の面接を経て、今年は**4名**の生徒がこの奨学金を獲得しました。

全ての奨学金獲得者とそのご家族の皆さん、おめでとうございます！

KISTで提供している学習奨学金の詳細と、出願時期・方法は以下リンクからご覧ください。

Web <http://www.kist.ed.jp/node/197>

Wall of Honor 2019–20

学期ごとにG6～8でIB学習者像を体現し、クラスの模範となった生徒を表彰します。この学習者像は意欲ある生涯学習者となるため、生徒たちが長期的な目標としている姿です。受賞者は同級生たちが選出するため、ここで選ばれることは大きな名誉です。Nominated students put their handprints on the Wall of Honor.

2019–20年度のSemester 1のWall of Honorに選出された皆さん、おめでとう！



G6A	Saku	Caring
G6A	Jiani	Balanced
G6B	Ewan	Caring
G6B	Mamiko	Principled
G7A	Nao	Caring
G7A	Shota	Principled
G7B	Prakariti	Caring
G7B	Aryan	Caring
G8A	Simba	Knowledgeable
G8A	Luer	Caring
G8B	Kiichiro	Knowledgeable
G8B	Ayami	Balanced

I&Sゲストスピーカー

マシュー・ウィリアムズ氏と南アフリカの黒人の苦境

ウィリアムズ氏は現在、False Bay Collegeでプログラムの最終段階の勉強する学生です。1月16日にKISTを訪れたウィリアムズ氏は、アパルトヘイト後の南アフリカで生まれ、アパルトヘイト法の下での抑圧の歴史と、人種の分裂の傷を取り戻した国で生きる衝撃的な経験を私たちに話してくれました。



ウィリアムズ氏の南アフリカでの生活経験-彼と彼の同僚が南アフリカで日常的に直面する困難

ウィリアムズ氏は、Vrygrond Township (非白人専用居住区) で育った彼の人生を私たちと共有してくれました。Townshipは、アパルトヘイトがまだ存在していた時代に非白人のために用意(隔離)された専用居住区のことです。アパルトヘイト法廃止後もその影響から現在もつめ跡が残っています。彼は私たちに貧困の中、幼少期をどのように過ごしたかを話してくれました。彼の両親は家族を養うことができませんでしたが、これはTownshipの中では少しも珍しくありません。幼い頃から、彼は危険な近所で自分の身を守ることを学



ばなければならず、学校を続ける事がとても難しいことから、ギャングの一員になり中学校を中退したという衝撃的な過去について話してくれました。彼は、幼い子どもたちが常にギャングを尊敬しており、残念ながら薬物、アルコール、暴力に関与していたことを強調しました。彼は自分自身を含む彼の友人の多くが暴力の犠牲者であり、学校に通っているときさえ、常に武器を持ち歩かなければならなかった事を強調しました。彼は、学校に通っていたときに他のTownshipのギャングメンバーに追いかけるというエピソードと、2度も刺されたという衝撃的な経験話してくれました。

彼はどのように南アフリカでの生活から逃れたのか

彼の人生のターニングポイントは、モチベーションを切り替え、教育を受けることに集中することを決めたときだったと彼は言いました。彼は、宗教への信仰-教会に行くこと-が彼に変化のきっかけを与えたと話してくれました。彼は麻薬をやめ、ギャングを去り、そして高等教育を修了し、大学に入学することが出来ました。彼は討論のスキルを通して海外プロジェクトにスカウトされたため、この貴重な学習経験を得ることができました。



なぜ彼は世界に彼のメッセージを届けたいのか

ウィリアムズ氏は、南アフリカの黒人の規範として教育の欠如が、この国の貧困と社会的不平等の根本的な原因であると強調しました。前述したように、ギャングやギャング関連の犯罪は依然として日常であり、これにより幼い子どもや有能な大人は、より多くの雇用機会を与えたり人生を変える可能性のある教育を終える機会を失うのです。彼はまた、人々が貧困から逃れるのを助けようと努力したいいくつかの団体について言及したにもかかわらず、南アフリカ政府が人々の望みどおりに機能していないことを強調しました。

プレゼンテーションから何を学びましたか、そしてそれは今後どのように役立ちますか？

ウィリアムズ氏のお話や経験は私たちのものとはあまりにかけ離れており、私たちの多くは驚き、幻滅しました。ウィリアムズ氏は私たちに貧困と人種差別の対立に関する全く新しい視点を与えてくれました。そして彼の経験を率直に共有しなければ、決して理解しえない現実に対処することができた事に深く感謝したいと思います。

このセッション全体が、私たちの世界観にとっても素晴らしい影響を与えてくれました。私たちは皆、教育を受けることの価値に触発され気づかされました。

私たちが当たり前だと思っている勉強や評価は、南アフリカの世界では人生を変えることを認識しました。したがって、私たち学生は、知識と思いやりのある大人に成長できるよう、さらに教育に力を入れることを奨励されます。



Eleina (G10A)





子ども食堂 ネットワーク



KISTではコミュニティに意義深い貢献を行える責任ある市民の育成を目指しています。*The Comet* では世界をより良い場所にするためにKIST生が行っている取り組みをご紹介します。

今回は子ども食堂サービス委員会をご紹介します。KIST生は貧困やその他社会的問題により孤独に苦しむ子どもや大人に、安全で健康な環境を提供するため日本中で展開されているNPOである「子ども食堂」ネットワークに協力し、活動を行っています。「子ども食堂」は、人々が集まり、一緒に食事をしたり、ゲームなどをしたりして楽しめる場を提供しています。現在、国内には数百の子ども食堂があり、そのうち12件が江東区にあります。

KIST生徒会長であるRiya(G11A)が初めて子ども食堂を知ったのはI&S(人文)の授業の課題でシングルマザーについて調べていたG9の時でした。日本のシングルマザーと貧困問題についてリサーチする中で、**日本の子どもの7人に1人は貧困ライン以下で生活している**ということを知り、非

常に驚きました。これは強くRiyaの記憶に残り、IBDPのサービスを検討する際に、子ども食堂こそ地域社会に貢献し、子どもたちの生活向上に役立てる素晴らしい機会だと考えました。

今年度始めから、Riyaと、Kaoru(G11A)、Min Seung(G11B)、Sujin(G11B)、Uri(G11A)、Michiko(G11A)は住吉と東陽町の2か所の子ども食堂でボランティアをしてきました。彼等はバレンタインデーのチョコレートを子ども食堂に寄付する取り組みも企画しました。コミュニティのご協力もあり、たくさんのチョコレートを寄付する事ができ(写真をご覧ください)、多くの子どもを笑顔にすることができました！この取り組みを支援してくださったコミュニティの皆様
に感謝します！

Riyaとチームメンバーは子ども食堂サービスプログラムを更に拡大する事を考えています。この活動に興味を持った人は是非Riyaにコンタクトを取ってください！



バレンタインデーのチョコレート集め



東陽町の子ども食堂



子どもたちと夕食



配膳のお手伝い

DOING GREAT THINGS!

生徒ケア最新情報

アドバイザーでの社会的認知と対人スキル授業

この激動の時に皆様が健康で安全に過ごしていらっしゃることを祈っています。アドバイザーの授業の一環として、生徒たちは社会的認知と対人スキルの習得に取り組んでいます。困難に直面した時に、共感力、他者への尊敬や効果的なコミュニケーションが何より必要になります。

成長と共に生徒の対人関係も変化します。そのため、授業の内容は学年により異なりますが、尊敬、思いやり、チームワークというテーマは共通です。

ReachOutでは良い友達は以下のいくつかの要素を持っていると定義しています。

- 何が起きようとあなたの味方である
- あなたを判断しない
- 貴方を貶めたり、意図的に気持ちを傷つけたりしない
- 貴方に優しく、敬意をもって接する
- 一緒にいると楽しい
- 忠実である
- 信頼が置け、貴方にとって耳触りが良くないかもしれない真実も伝えてくれる
- 一緒に笑える
- 大変な時もそばにいてくれる
- 貴方を笑顔にしてくれる
- 貴方の話を聞いてくれる
- 泣いている貴方を慰めてくれる

G6とG7の生徒は困難な時でも良い友達でいられる方法を模索しています。生徒たちは良い友達の要素と、友情にとって大切な事を考えました。その後、困難に直面している友だちに対する効果的・非効果的な対応に関する寸劇を披露しました。アドバイザーの授業は数週間かなり賑やかでしたが、同級生を尊重し、困った時に助け合う方法について有意義な会話を持つことができました。



Tokyo English Life Line (TELL)という組織の方がG8とG9に、家族や友人、恋人との健全な関係について講演するためにKISTに来校されました。生徒たちは様々な健全、あるいは不健全な関係性のケーススタディーをもとに互いへの敬意の大切さについて話し合いました。最後に、生徒たちは人間関係で敬意をもって接してもらえていないと感じた時に、校内で相談できる人がいることを知って授業を終えることができました。このような話はしやすいものではないですが、どのような関係においても自身を尊重してもらう権利があるということを知るのはとても重要です。

G9は自分たちにとって大切な価値観について考え、グループでこの価値観を例示する方法を考えました。グループワークは時に最悪の結果を生むこともあるので、まず、良いリーダーやメンバー、良いものを生み出すチームワークについて考えました。その結果、生徒たちは自身が体現したい価値観を体現するための様々な方法を考え出すことができました。

G10は学習グループを作ることの価値と、どのようにして様々な教科で複雑な概念を理解するサポートをしあえるかを学びました。学習グループは他のメンバーの信頼を維持しつつ、自身の学習達成度を確認できる効果的な学習テクニックです。また、自身の抱える不安や質問、知識を抵抗なく共有しあえる、全員にとって有益なネットワークです。

Anna Holdaway
Student Care Coordinator (G6—G8)



CISSMUN 2020

素晴らしいMUN(模擬国連)経験

1月は、上海のConcordia International Schoolで初の海外での模擬国連参加ということで、MUNクラブメンバーにとって非常にわくわくする月となりました！今回のCISSMUN会議は3日にわたる国際会議であり、平等、経済、社会、国際関係、紛争、環境問題といった実際の社会問題について委員会が議論する場でした。「尊厳と人権」というテーマのもと、代表たちは世界が現在直面している問題解決のため、白熱した、且つ建設的な議論を戦わせました。

最初に会場となる学校に到着した時、会議の規模の大きさに圧倒されましたー1000人以上の代表たちが開会式の間行われる体育館に着席していました！事務総長とCISSMUNアドバイザー達のスピーチのほかにも、内戦時のシエラレオネでの生活についての凄絶な体験についての基調スピーチをしてくださったMs. Mariatu Kamaraのスピーチを聞いたことも幸運でした。

各委員会に分かれた時は、初めて会った人たちに気後れするとともに、自分他のスピーチや議論についての



上海のMUNに参加した生徒と引率教師が会議の後に夕食を楽しむ

心配でいっぱいでした。しかし、実際に議論が始まり、自分達で選んだテーマについて他の代表たちと問題解決の提案の下書きを始めることができました。その後の2日間も議論やディベートに参加しながら、各代表が投票するためのしっかりした解決策を作成しました。ディベートは時に張りつめたものとなり、極限まで緊張を強いられましたが、自分たちが情熱を傾けることのできるテーマに取り組むことができたのはとても興奮する体験でした。ディベートが最終的に議長の槌音により終了した時、安堵と共に、このMUNの経験が実際の地球規模の問題を解決するのに必要なチームワークや論理的思考力をより磨く場であると理解しました。

MUNでの議論のほかにも、新しい友人を作ったり、MUNの真剣で官僚的な行動とは違う上海市内の観光に行ったりもしました！新旧の上海の街並みを楽しめるバンド地区や、食やお土産、特徴的な町並みを求めて田子坊地区にも行きました。今回のMUN旅行は実社会で起きている問題について知り、関与する事が出来た素晴らしい体験でしたが、それだけでなく、仲間と一緒に新しい場所を訪れたり、活動をしたりするとても楽しい経験でもありました！

Hanna (G10A)



CISSMUN国際会議でのKIST MUN代表団: 前列: Hanna (G10A)、2列目(左から): Mehak (G10B)、Saanvi (G9B)、Jiaying (G11B)、Yukino (G11A)、Ryuun (G10B)、三列目(左から): Helena (G9A)、Stephen (G10B)、Shiro (G10B)、Rei (G10A)

セカンダリーELS

集中英語講座(IE)と小論文(Academic Writing): 何が違うの?

IEとAcademic Writingのカリキュラムは、ELS部門によってMYP及びIGCSEを履修するKIST生をサポートし、G11とG12のDPプログラムで成功するために開発されたものです。どちらも各学年のELSインストラクターが該当学年の英語とI&Sの内容を考慮したうえで指導を行っています。そのため、どちらのコースでもその内容が内容的にも時間的にも授業での評価課題に沿ったものであり、生徒のニーズをサポートできるよう常に見直しが行われています。

IEとAWのカリキュラムは、どちらもリテラシーを実際の運用的、文化的、批判的に分けて定義するGreenの3D Model of Literacy (Green 2013)をもとに作られています。運用的リテラシーとは、文章の形式、語彙や文法といった言語の基本のことで、文化的リテラシーとは、時代や地域的な要因に特化した文章・文型を扱い、批判的リテラシーとは、文章や文型を作成する際に書き手が無意識に検討する権力や思考的要因を扱うものです。

Greenの3D model of literacyは厳密に階層化されているモデルではありませんが、言語習得の性質上、比率は異なるものの、それぞれを同時に学ぶことが必要です。運用的

リテラシーが深まるにつれてその他2つのリテラシーへの理解が深まるといわれています。これらをサポートするため、IE及びAWカリキュラムは、それぞれの分野で生徒のニーズを最大限サポートするために開発されています。

これらのコースの詳細は以下の通りです。コースについてご質問は、jade.bonus@kist.ed.jpまでお問い合わせください。

Jade Bonus
Secondary ELN Coordinator



参考資料:
Green, Bill & Beavis, Catherine. (2013). Literacy in 3D. An integrated perspective in theory and practice. 36.



集中英語(IE)	小論文(AW)
<ul style="list-style-type: none"> • G6~G8を対象に週2回、美術・音楽の授業に変わって提供 • 1学期は主に運用的リテラシーを集中的に扱う • 2学期は文化的リテラシーと運用的リテラシーの復習を行う • 教科間スキルに焦点を置く • 授業で取り扱うテキストの文型や文体に沿った学習を行う 	<ul style="list-style-type: none"> • G6~G10に提供 • 0時限に週2回(G9~G10)あるいは3回提供(G6~G8) • 主に文化的リテラシーを取り扱い、2学期には批判的リテラシーを多く取り入れる • 授業で取り扱うテキストの文型や文体に沿った学習を行う

第1回 日本漢字能力検定試験

漢字のスキルをさらに向上させるために、G6からG10の生徒は、2020年1月31日金曜日、6時間目にKISTで漢字能力検定試験を受けました。テストの公式結果は、3月中旬に日本漢字能力検定協会より学校に報告されます。結果は、学生の学期レポートに反映されませ



んがこのテストは生徒達にとって日本語能力を向上させる重要な機会となりました。漢字は、G11よりスタートするDPIに必要なスキルです。



日本漢字能力検定

KISTでのBrain Bowl

2月初旬のアドバイザリーの時間に、G6とG7を対象にしたQ&A形式のグループトリビアコンテストがMr. DayaramとMs. Chernenko主導で行われました。生徒たちは8ラウンドにわたり、質問に答え、パズルを解き回答用紙に記入しました。各ラウンドでは映画、書籍、地理や音楽などのテーマから出題されました。このコンテストは大成功で、縦割りのチームメンバーは互いに協力しました。



トリビアコンテストで優勝したチームは、2月12日に東京インターナショナルスクールで行われたKPASS Middle School Brain Bowl competitionに参加する権利を与えられました。参加したのはチームとBrain Bowlクラブから選ばれた以下メンバー: **Ulala** (G6A)、**Haruya** (G8B)、**Saku** (G6A)、**Han** (G8B)、**Shakti** (G8B)、**Ruby** (G8A)、**Ryan** (G8B)、**Ayami** (G8B)でした。

TISでのコンテストで、KIST生は大健闘しました。メンバーは他のミドルスクールの生徒も参加する縦割りでした。そのな



Shakti, HanとSaku

かでも、トップ3に入ったチームにはどれもKIST生が参加していました。それぞれのチームに大いに貢献した**Han**、**Shakti**、**Saku**本当におめでとう！素晴らしい成績を残す事ができました！

Brain Bowlクラブは毎週火曜日の放課後に活動をしていて、後数週間は活動を続けます。

**Ron Dayaram and
Natalia Chernenko**
Club Supervisors



Jordan Hattar氏がG9を訪問

2020年1月24日にHelp4Refugees(難民についての啓発を行う団体)創設者のMr. Jordan HattarがKISTに来校され、G9に難民支援や人権についてお話をしてくださいました。難民たちが直面する危機について何うことは私たちにとってまさに「目からうろこ」の経験で、人々が耐えなければならなかった問題の重さを実感することができました。Mr. Hattarのお話では、**Saanvi (G9B)**と**Ketan (G9B)**がファシリテーターを務めました。

このディスカッションは、Mr. Hattarの活動や“Help4Refugees”についての説明から始まりました。Zaatari 難民キャンプのためにキャラバン(トレーラー)を購入するためのMr. Hattarの個人的な資金調達活動について伺い、今起きている問題について広く啓発するために世界中の学校で講演されている理由や方法についてもお話いただきました。

「なぜ世界中の難民を支援しようと思ったのですが」という質問に対し、Mr. Hattarは、活動のきっかけは2005年のハリケーン・カタリナの被災者を支援しようと思ったことだったと教えてくださいました。その後、南スーダンの難民危機について知り、多くの難民が直面する生命の危機について知った氏は、人々の関心を高めるための記事を寄稿するようになり、その後実際に現地へ赴き支援活動を始められたそうです。私たちはMr. Hattarの困難にある人々を支援したい、より良い状況を作りたい、と願い、行動する氏の情熱の強さに感銘を受けました。

後半は、Mr. Hattarの信念がどのように氏の人格形成に影響を与えたかについてお話を伺いました。氏はご自身が大切にされる価値観は、共感、忍耐、無私だと話されました。これらの価値観を体現し続けることは簡単ではなかったそうですが、訓練と、行動の前にまず立ち止まって考え



ることで他の人々を最善の方法で支えることができたそうです。G9のアドバイザーでも、信念・中心となる価値観について学んでいるため、強い信念を持つことで社会に貢献することができるということに改めて気づかされました。氏の「変革をもたらした」お話しに感銘を受けた私たちからの最後の質問は、私たちが知る世界の危機についてどのように介入する・影響を及ぼすことができるか、というものでした。Mr. Hattarは変化の第一歩は献身と、自信を信じてことだと強調されました。Mr. Hattarは難民の価値観を理解するために多くの話に耳を傾けたそうです。そのことで、Mr. Hattarはより難民を身近に感じ、彼らを救いたいという思いが強くなったそうです。自分を信じるということもとても重要です。なぜなら何かを変えることができるという強い信念がなければ、怖くて、行動をとることなどとてもできないからです。

G9は他者助けることの重要性について多くを学び、この意義深いお話を聞けたことに心から感謝しています。Mr. Hattarありがとうございました！

Sara (G9A)



写真: Heet (G9B)とReed (G9A)

KISTクリケットーズ

南アフリカ ジュニアクリケットワールドカップにKISTの生徒が出場



Yugandhar



Ishaan

2020年1月に僕とIshaan (G11A) はとても幸運なことにもICC U19 クリケットワールドカップの日本代表選手として選ばれました。クリケットはとても幼いころから僕の生活の一部で、僕の年代にとっては最高峰ともいえる場で母国を代表することができたことをとても嬉しく思います。

2019年5月に開催されたICC 東アジア太平洋予選で日本代表は優勝を果たし、U19 クリケットワールドカップへの出場は今回が史上初となります。サモア、バヌアツ、フィジー、パプアニューギニアとの試合を勝ち抜き、本選で世界のトップレベルの国々と対決する切符を手に入れることができました。日本代表のW杯への出場は今回が初めてなので、これから先どのようなことが待っているのかという期待もありつつ、トップレベルの国々と対決するために必要な壮絶なトレーニングがあることもわかっていました。

W杯への準備の一環として、スリランカ・ウエスタン・プロビンス連合クラブチームと試合を行い、ブリスベンにて二週間の事前強化合宿に行きました。さらに、強い対戦相手との試合の練習のために、オーストラリアとも対戦しました。アンチ・ドーピングや汚職防止、そして行動規範などに関する書類へのサインという全員にとっての初めての体験を通して、このイベントがどれほどシリアスなものかを実感しました。

W杯は南アフリカで開催され、僕たちは1月11日にヨハネスブルグに到着しました。現地の環境に慣れたり時差ボケを解消するため、そして17日の試合開始のためのウォームアップをしながら、W杯開始前の一週間を過ごしました。三週間という期間で、まずはグループステージでニュージーランド、インド、スリランカと対戦しました。そのあとに、イングランド、カナダ、そしてナイジェリアとも試合を行いました。

世界の強豪チームたちと対戦できたことはとても貴重な体験であり、僕たち全員のこの先の人生においてずっと心に残るものとなりました。およそ4000万円もの契約を交わして活躍しているプロフェッショナルプレイヤーたちと話す機会もあり、彼らがそのレベルに到達するためにしたたくさんの努力を知りました。なんと、7~8時間にも及ぶ練習を毎日しているそうです！

W杯での試合を終えて、2月3日に日本に帰国しました。残念ながら望んでいた結果を得ることはできませんでしたが、日本代表がW杯への初出場を果たしたことが、日本においてクリケットというスポーツがとても速いスピードで成長していることと、これからの日本クリケットの可能性を証明したと思います。

バングラデシュが優勝した今回のW杯は、日本においてのクリケットの認知度を高め、今後クリケットの人気はどんどん高まると思います。今回、日本クリケットに関わった人全員がたくさんの刺激を受けて帰国し、今回が最初で最後ではなく、今後も何度もW杯へ出場できるように努力し続けます。

Yugandhar (G11A)



入選おめでとう！

昨年8月に行われた第8回「河野裕子 短歌賞・青春の歌部門」(産経新聞社主催)において、Sara (G9A) が、応募総数6,518首より、入選51首の中の一首に選ばれました。

別れの日
うまく言葉が
でてこない
その静けさが
別れの言葉



昨年11月末にやっと送られてきた賞状です。

G10 I&S ビジターを歓迎

Mr. Clay Bradleyと米国の公民権運動

2020年2月13日にG10のクラスは、1950年代から1960年代における人種差別と不当な社会システムに対する改革の影響を直接経験した、white southerner(アメリカ南部白人)のMr. Clay Bradleyより、とても教育的かつインスピレーション的な話を聞くことができました。このセッションは、人種差別や奴隷制、そして外国人嫌悪、さらに南アフリカとアメリカにおけるcivil rights movement(公民権運動)などのコンセプトについて学び、それらが社会にもたらした変化について議論し、I&SのCivil Rights(公民権)のユニットの一部として行われました。

Mr. Bradleyは、公民権運動が始まって4年後の1958年に、ミシシッピ州・ジャクソンで生まれました。当時、特にミシシッピ州とアメリカ南部において、人種差別は日常的でした。ジム・クロー法により、人々はバスや水飲み場といった些細なことから、医療や教育などの生活の大きく関わることで、白人と「有色人種」に分断されていたからです。Mr. Bradleyによると、アメリカ南部の農業経済を支えていたアフリカ系アメリカ人の奴隷が、1963年の奴隷解放宣言ですべて解放されたことで、政府が自分たちの「所有物」を奪ったと思い込んだ南部白人の奴隷所有者たちにより人種差別は加速されたそうです。

Mr. Bradleyの父親は、当時ミシシッピで数店舗のレストランのオーナーとして働いており、Mr. Bradleyも週末によくお店の手伝いをしていました。そのレストランは白人客しかレストラン内で食事ができず、黒人客はお店の外で持ち帰りの注文をすることしかできなかったそうです。上の兄弟がレストランで白人客の接客をする一方で、Mr. Bradleyは黒人の従業員たちが密集するキッチンで働いていました。そのように黒人のコミュニティに頻繁に触れて育ったことは、彼を“colourblind”で人種偏見を持たない人間へと成長させました。黒人の友達を持つMr. Bradleyのことを馬鹿にする兄弟とよく言い争いになり、白人のコミュニティがなぜ黒人のコミュニティから自分たちを切り離そうとするのか理解ができませんでした。また、家族からは“black sheep”(厄介者)として扱われ、白人としての立ち居振る舞いに関して厳しいルールを持った白人コミュニティに馴染むことのできないアウトサイダーとして見られていたそう

です。

しかし、社会はどんどん変化していきました。

アフリカ系アメリカ人は、Rosa ParksのMontgomery Bus Boycott(1955~56年)やAlbany Movement(19661~62年)、そしてSelma Voting Rights Movement(1965年)などを含めた公民権運動を通して、平等を求めるために戦い始めました。そして、いくつかのcivil rights acts(公民権法)が1957年、1960年、1964年、1968年と、次々に可決されました。Mr. Bradleyの印象に特に強く残っている改革は、1969年に学校での人種差別が禁止され、白人と黒人の生徒数が同じであることが強制されたことだそうです。これには勝利を感じながらも、実際は黒人の生徒には到底負担できない私立の学校へと転校した兄弟を含め、まだ多くの白人が他の人種と生活スペースを共有することを忌避することを不本意に感じていました。そのような南部の激しい人種差別に耐えかねて、大学を卒業後、彼はミシシッピ州から離れました。

近年の差別的意識の再出現に対してMr. Bradleyは懸念を示し、人々が努力と戦いの末に得た平等と人種差別の廃止におけるかけがえのない功績を取り消そうとする、現アメリカ大統領のDonald Trump氏を非難しました。彼は私たちに、奴隷貿易の始まりから現代にいたるまでの過去数百年において、白人が何も失っていないのは、元から何かに対する権利を有していないからであるというメッセージを伝えました。尊厳と尊敬をもってお互いが接し、不当な扱いに対しては声を上げ、いつまでも学習者であることを生徒たちに求めました。今回のセッションはとても貴重で興味深い経験でした。私たちはcivil rights movementをwhite Southernerの視点から知ることだけでなく、不公平に対する彼の考え方を学ぶことができました。そしてそれらの知識を、思いやりのあり、まじめで、知識のある人間になるために、自分たち自身の人生にあてはめることができました。

Stephen (G10B)



G12味の素工場への校外学習

G12経営学履修生が川崎の味の素工場を見学



味の素。日本人であれば知らない人はいないと思います。味の素は時代を超えて日本の食文化に存在し続けてきました。ほぼ100年近く前、1909年から市場にある味の素はどのようにして開発されたのでしょうか？

2月3日にG12のBusiness Management履修生が幸運にもこの答えを得る機会に恵まれました。生徒たちは味の素の主力商品で、「旨味」として必須のカツオ出汁である「ほんだし」工場見学に参加しました。しかし、まずは会社としての味の素株式会社をIB Business Management形式でご紹介させていただきます。

味の素株式会社（現在はPLC）は池田菊苗博士が昆布出汁からうま味を発見した1908年に創業された、バイオテクノロジー及び食品会社です。博士が新たに発見した「うま味」と、昆布だしの研究を進め、昆布に独特のうま味を与えるアミノ酸の一種、グルタミン酸が含まれていることを突き止めました。そこで博士グルタミン酸を主成分とする調味料の開発を行いました。調味料に加え、味の素では、現在調味油、飲料、冷凍食品、甘味料、サプリメントやスキンケア製品の開発・製造、販売を行っています。生産ラインでは食品が全体の70%を占め、30%がアミノ酸に特化した分門で製造されるアミノサイエンス製品です。この部門の売り上げ第1位が代表商品であるMSG（グルタミン酸ナトリウム）を含むうま味調味料（消費者の90%が購入しています）で、お馴染みのパンダが印刷された赤と白の容器に入っています。

ガイドをして下さっていたスタッフに化学調味料による健康被害の懸念についてお聞きすると、彼女は微笑みながら、現在使われている材料はより信頼性の高い天然由来のものになっていて、そのため会社も商品名を「化学調味料」から「うま味」に変更することができた、と話してくれました。味の素は海外にも事業を拡げており、1920年からアジアに支社・事業所を展開しています。また、地域の有力企業と協力し、現在トルコ、中東、アフリカへの進出も行っています。

味の素は世界中で34,504人（2019年）を雇用しており、主力工場は川崎市にあります。しかし、財務報告書を見ると2016年度の売上¥98,144 (million) に対し、2019年度には¥92,635 (million) に下がっています。それでも味の素は乾物（うま味や調味料）の分野において世界規模で第1位のシェアを誇っています。



味の素川崎工場のロビーに到着すると味の素のマスコットキャラクターのあじパンダに迎えられ、ガイドの方と一緒に記念撮影を行いました。その後、シアタールームで壁4面全てを使って投影されるビデオを見ました。



このビデオでは調味料の“味の素”についてと製造過程について学びました。“味の素”は調味料で食品に「うま味」を添加できます。「うま味」とは何でしょう？うま味とは甘味、酸味、苦味、塩味と並ぶ5つの味覚のうちの一つで出汁や調理された肉にも含まれる「旨味」のことです。ビデオではうま味は古代の日本で海藻を煮込んだ際に発見された味であると紹介されていました。味の素ではこのうま味を構成するのがグルタミンというアミノ酸であると発見し、現在ではサトウキビ、キャッサバ芋、小麦などからこの調味料を製造しています。

ビデオの後で、味の素の資本集約製造技術が集められた本だしの製造ルームを見学しました。ここでは機械による大量生産が可能になっています。この見学では授業で学んだビジネス理念や製造過程を実感することができました。また、味の素が消費者に対して最高品質の製品をスムーズに提供するための製造工程や品質管理についても学ぶことができました。



実際に本だし（かつおだし）を製造する工程を体験することもできました。各自かつぶし（本節）を渡され、削ってみました。その後、スタッフの方が削られたかつぶしが味の素の品質を満たしているかチェックしてくださいました。残念ながら私たちの削ったものは味の素の高い基準をクリアすることはできませんでしたが、企業が消費者の期待に応えるために高い品質を維持することの重要性を実感できました。



味の素は日本では有名ですが、MSGによる健康被害で様々な批判にもさらされていたこともあります。これを知っていた私は、個人的にこの調味料を試すのが不安でした。でもこの考えは工場での小さな実験を通して完全に変わりました。MSGが入っていない味噌汁を味見した後でMSG入りのものを飲んでみました。たった4滴のMSGが追加

されたことで味わいが劇的に変わりました。

今回の味の素への校外学習は、自分達が得た知識が応用されている製造現場を見学する事が出来たということで、Business Managementの単元の終わりにふさわしいものでした。

Megu (G12A), Ami (G12B) and Marlinah (G12A)

図書室ニュース



葛飾北斎

ニューヨークのメトロポリタン美術館(MET)は最近、葛飾北斎の富嶽三十六景(1830-32)の作品の一つ、「神奈川沖浪裏」を展示しています。

KISTでは、以下からフリードローイング素材として、北斎の「略画早指南」を始め、日本画から213,000以上のデジタルアーカイブされた版画や作品を生徒やご家族の皆さんにご提供しています。

Web <http://bit.ly/KIST-Libraries>
>KIST Libraries >Free Online Resources >Art
>Katsushika Hokusai

JSTOR—新着情報

- 高校生や小論文(EE)を作成中の生徒を対象
- 人文、社会科学、科学の一流学術論文2,600以上へのアクセス
- 書籍
- 学術論文出版社から学術誌やJSTOREの参考書籍などから70,000のDRM-free ebook
- 文学や安全保障研究、持続性など研究論文や学術誌などからのテーマ別の蔵書

生徒はまず'How to Use JSTOR'ガイドを読んでください。

Web <http://bit.ly/KIST-Libraries>
>KIST Libraries >KIST Online Resources
>JSTOR

新校舎

新校舎の建設開始が近づく中、図書室でも準備が始まっています。Mr. TimとMs. Hemaはこれまでの12ヶ月間、もう生徒やスタッフが読まなくなった図書を忙しく整理してきました。この過程ではほぼ全てのセカンダリーの先生が何らかの形でご協力くださいました。

その結果、KISTでは必要ではなくなった、古くはあるものの、まだ十分読むことができる多くの本を、埼玉県にあるNGO団体—Together with Africa and Asia Association(TAAA)—の久我様にご寄付させていただきました。



Mr. TimとMs. Kuga

TAAAは1992年から南アフリカの教育支援を行っており、主にアパルトヘイト政策中に教育がないがしろにされていた農村部の学校に10,000冊の英語の本を送るなどの教育支援を行っています。これらの地域では教育を受けることができなかったため、未だに貧困や就職難に苦しむ人々が多くいます。

Web <http://www.taaa.jp/>

LMC新着図書

LMCでは2020年にNetflix、Prime、Huluで映画配信される原作フィクションをより多く所有する事になります。映画を観る前に是非原作を読んでみてください。映画では原作の要素がぬかされていることがあります、本でなら、事前の知識を得たり、想像の翼を広げたりすることができます。



LMCではスタッフのための資料の拡充にも努めており、教育学の参考書籍を新たに購入しました。更に、ヤングアダルト(YA)、英文学、百科事典の新着書籍をカタログに纏めました。新着書籍を読み、是非LMCを訪問してください。

また、手助けが必要でしたらいつでも声をかけてください。

クラス図書

昨年度のCA図書委員会による資金調達・寄付のおかげでエレメンタリー図書室ではエレメンタリー各クラスにクラス図書を購入する事ができました。各クラスが2冊づつ購入希望を出し、生徒たちは新しい図書を楽しんでいます！



Scholastic

KISTではまた皆さんにEnglish from the Scholastic International School Book Clubの書籍購入機会をご提供します。このプログラムでは家族皆さんで楽しんで頂ける教育教材・書籍を購入いただけます。

KIST図書室ではKIST生ご家族の購入総額の20%をポイントとして受け取り、新たな図書を購入する事ができます。ご購入は以下サイトから行えます。購入締め切りは3月20日ですので購入いただいた書籍は春休み中にお楽しみいただけます。

Web <http://world.clubs-school.scholastic.co.uk/kinternational-school-tokyo>



次のページに続く

前ページの続き

KISTv

K. International Schoolの素晴らしい行事の数々をこちらからご覧いただけます。



Web <http://bit.ly/KISTv-events>

- World Cultures Day & Japanese New Year Party (相撲も含む)
- PE—The Sid Shuffle—G2A & G2B
- Winter Celebration 2019: K1-K3, G1-G5, G6-G12
- Hockey

書籍のご寄付

LMC、美術部門、そして読書を楽しむ全てを代表してLMCに素晴らしい美術書の数々をご寄付いただいたMr. Valckxに感謝いたします。Mr. ValckxはMs. BethanのG4クラスと



Mr. Valckx, Ms. DumasとG4As

Mr. LukeのG11美術履修生にご自身の作品についてお話しくださったMs. Dumasをご同行くださいました。

ご寄付いただいた書籍を新しい図書室に並べることができるのを楽しみにしています。

KIST Libraries Team

World Cultures Day

今年のJapanese New Year Party(同号Cometsの前半で特集)に合わせてWorld Cultures Dayも、2020年1月29日に同時開催されました。美術展、エレメンタリーの生徒達や先生を中心にセカンダリービルで行われた民族衣装のパレード、日本文化に関連する相撲の取り組みや餅つきなど、終日様々なイベントが行われました。



さらに、セカンダリーの生徒達は、エレメンタリーの生徒達に交流授業を通じて、異文化意識、文化の多様性、家庭言語のサポートを促進するためのプレゼンテーションを行いました。生徒達の中にはダンスの練習、故郷のビデオ作り、冬休みに家族と協力して、年下の生徒達と共有する有益なコンテンツなど、プレゼンテーションのため多くの準備と時間を費やしました。



運動部最新情報

Winter season 2019-20

コロナウィルス流行の影響で、KISTバスケットボールチームは3月初旬のISTAAトーナメントに参加する事ができませんでした。そのため、シーズンの終わりとしては不本意なものとなってしまいました。HS とMS 男子バスケットボールチームは今年優勝する機会があったのに残念です。

以下は冬シーズンスポーツのコーチからのコメントです。

Kanto Plain Junior Varsity Boys' Football (Soccer)



JVサッカーシーズンがようやく終わりました！シーズン最後にSt.Mary'sでの特別Varsityトーナメントに参加し、Lycee Francais Internationale de Tokyo (LFIT)に対し、(2-0)で一勝しました。残念ながら、German school とSt. Mary's には惜敗してしまいましたが、多くの選手が負傷で出場できなかった中、LFITとの試合内容は満足のいく素晴らしいものでした。今シーズンは多くの高揚感をもたらしてくれるものでもありました。ASIJに対し4勝するなど、多くの選手の成長が見られました。選手たちがこの成功体験を次のフットサルシーズンに活かしてくれることを願っています。選手の皆をコーチする事が出来たことを心から楽しみ、「一旦止め、腕立て3回」と皆に叫ぶことがなくなったのを寂しく思います。

Coach Knuchel



Kanto Plain Middle School Girls' 8 v 8 Football (Soccer)



激しい雨、雪降る土曜日、そして負傷などを乗り越えた練習を通して今期のMS女子チームは大きな進歩とチームとしての結束を得ました。他校のチームから称賛されたフェアプレー精神とゴールキープのスキルもあり、より長い歴史を持つチームを相手にリーグ6位という好成績を残しました。選手たちは素晴らしいチームプレイで互いを称え合い、次のフットサルシーズンにつながる新たな友情や互いを支え合う前向きな関係を築くことができました。

Coach Child



Kanto Plain and ISTAA Middle School / U-14 Boys' Basketball



MS男子バスケットボールチームの選手たちに素晴らしいシーズンのお礼を伝えたいです！選手たちは短い時間で大きな成長を遂げました。寒い早朝練習や1時間もの遠征試合などへの熱心な参加に感銘を受けました。メンバーの互いへの尊敬や友情、そしてチームワークをみると、来年のさらなるレベルアップを容易に信じることができます。皆、本当にありがとう！最後はチーム恒例の応援で締めたいと思います：1、2、3 COMETS!

Coach Dayaram



ISTAA U-18 Boys' and Girls' Basketball



ISTAA U-18男子及び女子バスケットボールチームはどちらも忙しいシーズンを過ごしました。女子は12月初旬にすでにYISで開催された2日間のトーナメント(WJAA)に参加し、名古屋、大阪千里、カナディアンアカデミー神戸などのインターナショナルスクールと対戦しました。戦績は1勝3敗でしたが、良い経験となりました。ISTAAリーグではLFITとColumbiaに敗戦、CIS、KAISとBSTIに勝利しました。男子ISTAAIには更にアオバとニューインターナショナルの2校が加盟し、8チームとなりました。シーズンを通して負傷者や欠席者がいましたが、男子は健闘し、4位でシーズンを終えました。シーズン後半のコロンビアインターでのA 46-40 OTの接戦は素晴らしい試合でした。

Kanto Plain and ISTAA Middle School / U-14 Girls' Basketball



MS女子バスケットボールチームは1月中旬に練習を開始し、ISTAA親善試合にいくつか参加しました。LFITでのアウェイで22-21の惜敗、コロンビアとのホーム戦では24-14で勝利しました。残念ながら3月に予定されていたISTAA U-14トーナメントとKanto Plain Leagueは全て延期となりましたが、今後にご期待ください。

クラブ活動のハイライト

Debateクラブ(セカンダリー)

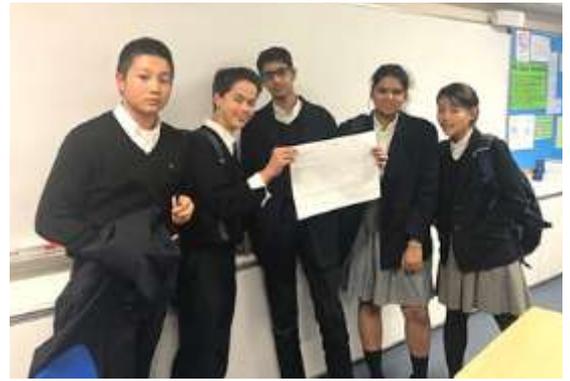
DebateクラブではWorld Schools Debateの基本とともに、チームとして相手よりも強い論拠のある議論を展開させる方法を学びました。ディベートチームは3人編成で、賛成、あるいは反対意見を主張します。クラブでは主に実際のKPASS Debateトーナメントの準備として、構成、スピーカの役割、論点の整理などのスキルを学びました。

他のインターナショナルスクールとの初戦では、ディベートの前に動議・テーマを知らされ、準備をすることができました。このおかげでディベートでは両チームともしっかりとリサーチに基づき、具体的で絞り込んだディベートを行うことができました。個人的には、ディベートの1時間前までテーマを知らされない形式のディベートが好きでした。この形式では、頼れるのは辞書と、チームの有する知識のみです。これは自分の持つ知識を活用してより幅広い論戦を柔軟に広げることができるので興味深く感じました。

このクラブでは特定の考え方の訓練を受ける事ができ、またたったの1時間で自分のチームの論点を明確にするためにチームメイトと協力し、効率的なコミュニケーションを行うことを学びました。更に、ディベートをすることで明確に話すというスタイルを確立する事ができました。これは何かを説明したり、相手を説得したりするのに役立つ手法です。



Kiichiro (G8B)



かるたクラブ(セカンダリー)

かるた部・団体戦5位に

第12回育成職域団体戦かるた大会が、令和元年12月25日から28日の四日間に開催されました。KISTかるた部からは、**Michiru**(G12B)、**Saki**(G11B)、**Hanano**(G10B)、**Rinka**(G10B)の4名のチームが28日に参加しました。

当日はα組8チームが、A、B二組に分かれて総当たりの予選リーグが行われ、その成績に応じて順位決定戦が行われました。

団体戦では、各チームの代表5名が、1対1で勝負を行い、3勝以上を挙げたチームが、「チームとして」勝ちとなるルールのため、4名しかいないKISTは、一人は「不戦負」という不利な条件にも関わらず、1勝2敗(B組3位)で予選を終わりました。

そのあと、5、6位決定戦に勝ち、α組5位という結果になりました。

Etsuo Kamo
Club Supervisor



Staff 10!

今月の Staff 10! では、2018年8月にセカンダリースクールの科学教師として加入した **Andrea Ramos** をご紹介します。科学の担当であることに加え、Ms. Ramosは現在G7Bのホームルームアドバイザーを務めています。



中央アメリカ最高峰の火山、グアテマラのTajumulcoの頂上にいるリステイカーのMs Ramos

1) 出身地について面白いことを教えてください。

私はアメリカ、コロラド州のCedaredgeという小さな町の出身です。この町はあまりに小さいので信号機が一つしかありません。でも、小さな町であるにもかかわらず、Grand Mesaと呼ばれる世界最大級の台状の山に囲まれています。なので、ハイキングやキャンプ、冬にはスキーをするのに最適な場所です。

2) 世界で一番好きな場所はどこですか？

私のお気に入りの場所はグアテマラのアティラン湖です。アティランは火山やマヤ先住民族の村に囲まれた美しい湖です。村々への移動には水上タクシーを利用します。素晴らしい人々に恵まれた美しい湖です。

3) チャンスがあったら会ってみたい人は誰ですか？その理由を教えてください。

私が生まれる前に亡くなった祖父に会いたいです。祖父も教師でスポーツのコーチもしていました。家族は私が祖父の運動神経と精神を受け継いでいると思っています。

4) 何か特別なスキルやタレントをお持ちですか？

そうですね...あまり役に立つ才能ではないのですが、耳を動かしたり、短い距離でなら逆立ちで歩けます！

5) ご自身についてあまり知られていないことを教えてください。

私が高校時代、Future Farmers of America (FFA) の一員として積極的に活動していたことはあまり知られていません。現在農業には関わっていないのですが、木工や溶接など多くの技術を学びました。

6) あなたにとって一番の宝物は？

祖母からもらったネックレスです。私が海外に引っ越す前にもらったもので、お守りの意味があるため、毎日身につけています。

7) あなたはどのIB学習者像を身近に感じますか？その理由もお聞かせ下さい。

Risk-takerです。私は普段はどちらかといえばおとなしい方ですが、Risk takerでもあります。海外への移住？一人で旅行？スカイダイビング？ダイビング？何でもやってみます！もし、これまでリスクを恐れていたなら私は今の自分としてこの場所にはいなかったと思います。私は、計算や計画をしっかりとしたうえでリスクを恐れず、新しいことにチャレンジするのが大好きです。

8) もう一度人生をやり直せるとしたら何か他のことをしたいですか？

何も変えないと思います。これまでの決断が今の私を形作っていると思うし、今の自分に満足しているからです。

9) 自分を高めるために今やっていることは？

もっと強く健康な自分を目指して週に2~3回はクロスフィットジムに通うようにしています！また、常に学術誌や雑誌、ポッドキャストなどから最新の科学や技術、世界情勢の知識を得るようにしています。

10) ファンに一言お願いします。

日本という美しく、優しい人たちがいる国に住み、働くことができることを幸運に思っています！

セカンダリーSRC

栄養不良と戦う—SRCからTable for Twoへの寄付

栄養不良・栄養失調は恵まれない人たちにとってあまり大きく、共通の問題です。世界中で何百万人もの子供たちが健康的な昼食を摂ることが出来ずにいます。これは早急に取り組まなければならない問題です。そのため、SRCでは年度始めにダンスを企画し、その収益の50%をこの問題解決に取り組んでいる組織に寄付する事にしました。



Table for Twoは3つの国、日本、アメリカ、ドイツの学生たちに健康的な昼食を提供するために活動しているNGOです。企業は運営する飲食店の収益の一部を寄付する事でこの活動に貢献する事ができます。提供する1食あたり0.25セントが寄付されます。また、このNGOでは直接の寄付も受け付けているため、SRCでもその趣旨に賛同し、寄付をすることにしました。12月に開催された、「宇宙」

をテーマにしたSRCダンスでは生徒が友人や好きな相手をspace dateという取り組みを通して招待できました。この取り組みでは、招待したい相手に蛍光スティックを送り、また代わりに入場料を支払います。これらの取り組みによりSRCの収益が増え、Table for Twoに寄付する額を増やす事ができました。多数のセカンダリー生の参加のお陰で、最終的に50,300円を寄付する事ができました。

SRCを代表して、生徒皆の参加によるこのイベントの成功と、それにより今世界で起きている重要な問題を支援出来た事に感謝します。また、今後のSRCが予定している取り組みのいくつかをお知らせします：ダンスパーティ、生徒の提案ボード、スポーツワークショップなどです。SRCは校内での生徒の生活の改善と、寄付などを通じてKIST外の社会にも良い影響を与えられるよう願っています。

Ravi (G11B)



保健便り

夏の食中毒について

なぜ食中毒は夏場に起こりやすい？

細菌は自然環境の要素である水、空気、土そして人間の体にも存在します。細菌は高気温(32度~43度)と湿度が加わることで細菌に必要な栄養と水分が生産され急激に増殖します。食中毒を引き起こす病原菌の中で多い細菌はサルモネラ菌、大腸菌、カンピロバクターで、食品を高い気温下で放置すると細菌の増殖が危険レベルまで到達しその食品を食べることで食中毒を引き起こします。

食中毒の原因に多いのは？

- 生、生焼けの肉/魚介類や卵を食べる
- 交差汚染: 生肉/魚介類に触れたトング、まな板、包丁などの調理器具や調理台に調理済みの料理が触れ汚染され、それを食べる
- 洗い不足で不衛生な食材を料理する
- 室温で2時間以上放置された作り置き料理を食べる
- 石鹸等で手洗いをしなかった、汚れた手で料理を作った場合
- 動物のフンで汚染されている牛乳や卵を食べた場合

食中毒の症状

細菌で汚染されている食べ物や飲み物を食べて数時間から数日後に食中毒症状が始まります。症状は細菌の種類によって軽症から重症と幅広いです。主な食中毒症状は

- 腹痛
- 吐き気
- 嘔吐
- 下痢
- 発熱
- 頭痛
- 脱水



また、以下のような重症の場合は医師の診察が必要ですよ。

- 脱水症状(尿量が少ないか全く無い、眩暈、極度の衰弱)
- 38度以上の高熱
- 頻回な嘔吐
- 下痢が3日以上続く
- 便に血が混じる
- 強烈な腹痛
- 神経症状: 筋力の衰え、力が入らない、かすんで見える

治療方法

- お腹の症状が落ち着くまで数時間食べるのをやめる
- 水分補給し体から失われた水分やミネラルを補う
- 下痢が酷い場合は経口補水液のOS-1やスポーツドリ

参考文献:

東京都福祉保健局、東京都食品安全FAQ(最終閲覧日2020年2月)

https://www.fukushihoken.metro.tokyo.lg.jp/shokuhin/eng/anzenjoho_index.html

ンクを摂取し脱水を防ぐ。

- 脂っこい食べ物、刺激の強い料理は避ける
- 十分な休息
- 重症で特定の細菌による食中毒の場合は医師から抗生剤が処方される。



食中毒を防ぐには？

清潔

- 調理前、途中、後と石鹸でしっかり手を洗う
- 調理前に野菜、果物、魚介類は清潔な水でしっかり洗い汚れを落とす
- 清潔な調理器具、まな板、調理台を使用する

分別する

- 生肉など調理前の食材と調理済みの料理を一緒にしない
- まな板、お皿、箸、包丁などの調理器具を使う際は野菜や果物用と生肉、魚介類や卵などは分けて使用する。もしくは最初に野菜などを切ってから肉や魚を調理する。

調理

- 有害な細菌は十分な調理時間と温度を掛けることで死滅することができます。
- 肉料理は火が中まで通り色が変わっていること
- 魚介類もしっかり火を通す
- 食材はできるだけ加熱する
- 最低限でも食材の中の温度が
 - ⇒ 鶏肉類は74度
 - ⇒ 牛ひき肉71度
 - ⇒ 牛肉、豚肉、ラム肉と仔牛肉63度以上であること

その他

- 買った傷みややすい食品、準備した料理は冷蔵庫、又は冷凍庫に二時間以内に冷やす(室温で放置しない)。
- 食品の解凍は冷蔵庫又は電子レンジを使用する。室温で放置しながら解凍するのは避ける。
- お弁当は保冷剤と一緒に持ち運ぶ
- 食品を分けて保存する際に浅く平らな容器に移し食品が早く冷えるよう工夫する。
- 室温で放置された調理済みの料理や生焼けの疑いがある場合は破棄する。

Yukiko Yamazaki
School Nurse



大学ガイダンスニュース

大学進学アドバイザーークラス

KISTの大学進学カウンセリングオフィスからこんにちは。現在12年生の多くはすでに大学出願を完了し、辛抱強く結果を待っている段階で、進学カウンセリングオフィスの業務の重点は、12年生から、9年生～11年生にシフトしています。各学年のアドバイザーークラスでは、世界各国の大学についてより知識を深め、どのように調べたらよいかを学ぶためのプロジェクトに取り組みました。

学校や都内で開催される大学説明会やイベントについてはSharePointの[University Calendar](#)をぜひチェックしてください。

9年生

9年生のアドバイザーークラスでは、自分たちでリサーチするというプロジェクトを通して、世界各国には素晴らしい大学(2020年度版QSランキングの上位100校)が存在するということを学びました。各グループが取り上げたのは、アメリカの公立・私立大学、アメリカのリベラルアーツ大学、カナダの大学、ヨーロッパとオセアニアの大学、イギリスの大学、そしてアジアの大学です。



進学カウンセラーから9年生の保護者の方への提案:

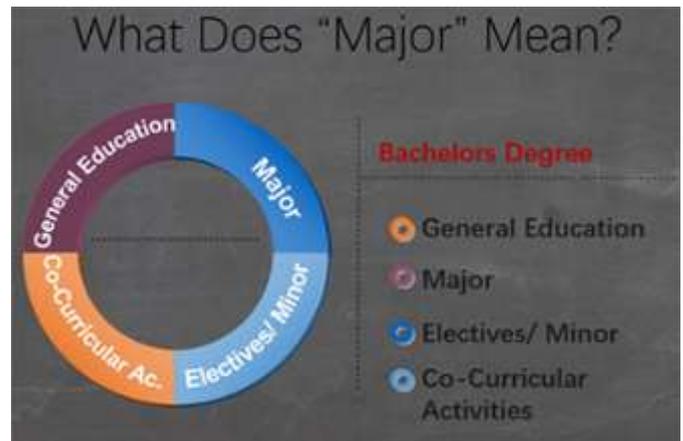
❗ お子さんが成功するためには「この国・地域で学びたい」というモチベーションが必要です。ご家庭でぜひお子さんの希望を聞いてみてあげてください。

10年生、11年生

10年生と11年生のアドバイザーークラスでは、学校での教科と大学での専攻について調べました。10年生はまもなくIBでどの科目を選択するかを決めなくてはなりませんし、11年生は来年の秋の大学出願に向けて専攻を考えるのに忙しい時期です。グループに分かれて、**Engineering & Technology**、**Social Sciences & Management**、**Life Sciences & Medicine**、**Arts & Humanities**、**Natural Sciences**、and **Undecided Majors**(出願時に専攻を決めていない)の各分野を担当しました。例えば生物学を大学で学びたいと思っても、国によって高校で履修していなければならない科目が異なることなどがあり、注意が必要です。

進学カウンセラーから10年生、11年生の保護者の方への提案:

❗ もしお子さんが大学で何を学びたいかはっきりしていない場合は、興味のない分野は何か、から始めるの



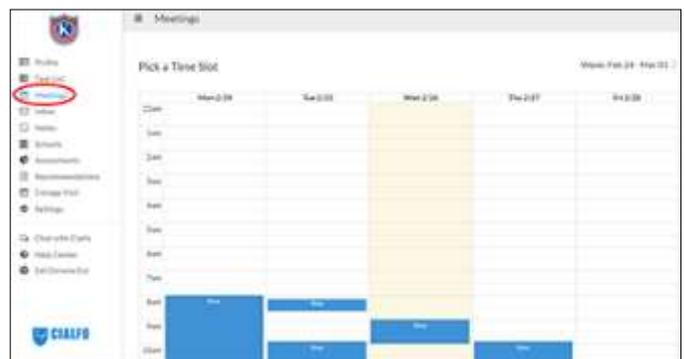
もお勧めです。大学に入るまで専攻がはっきりせず、大学で学びながら最終選考を決める学生もいます。ただし、イギリスのように大学出願の際に専攻を決める必要があり、いったん入学すると変更が難しい大学もありますので、注意が必要です。

大学進学相談の面談について

9年生から12年生のご家庭の面談リクエスト方法

9年生から12年生のご家庭には、日本の祝日を利用して、Mrs. OkudeとMr. Waterfallの個人面談日を設定いたしました。申し込みがすぐにいっぱいになってしまい、予約が取れなかったご家庭が多かったと思います。たいへん申し訳ありません。次回はぜひお会いしたいと思います。

お知らせ: 祝日の個人面談日に限らず、各カウンセラーの通常の勤務時間中でしたら、いつでも個人面談は可能です。お子さんのCialfoからミーティングリクエストをお願いします。Cialfoには各カウンセラーと面談可能な時間がわかるカレンダーがあります。リクエストの際には“Parents Meeting”と明記し、面談したい内容のトピックをお書きください。とても簡単なシステムです。ぜひ、ご利用ください。



8年生以下のご家庭の面談リクエスト方法

もちろん皆様のことは忘れておりません。まだクラス授業や生徒の個人面談はありませんが、大学進学に関してのご質問や個人面談のリクエストなどいつでもお受けしております。直接メールでkeiko.okude@kist.ed.jpまたはthomas.waterfall@kist.ed.jpにご連絡ください。

Keiko Okude and Thomas Waterfall
University Guidance Counselors



卒業生の声

Interview with KIST alum, Yurika (Class of 2018)

Mr. Thomas:

今日は2018年度の卒業生で、現在東京大学に通っているYurikaのインタビューです。まず、自己紹介をお願いします。



Yurika:

はい、こんにちは、私の名前はYurikaです。6年生からKISTに来ました。その前はマレーシアに住んでいました。私にはいろいろな興味がありますが、犬も好きです。



Mr. Thomas:

ありがとうございます。では、次に、今どこで何を勉強しているか教えてくださいませんか？

Yurika:

東京大学教養学部のPEAK JEA (Japan in East Asia) プログラムで学んでいます。

Mr. Thomas:

東大ですか、すごいですね。なぜそのコースに出願しようと思ったのですか？入学するのはむずかしかったですか？

Yurika:

私は日本の大学に進学して日本について勉強したいと思いました。私は日本人ですが、日本について、例えばその歴史や経済について、あまり知識がありませんでした。出願はそれほどむずかしくはなかったと思います。IBスコアの期待値は高く、面接も時間が長くて結構たい

へんでしたが、プロセス自体はわかりやすかったです。

Mr. Thomas:

なるほど。では、大学に入る前について聞きたいと思います。準備するにあたってKISTで一番役に立ったことをひとつあげるとすれば？

Yurika:

IBのクラスでしょうね。例えば、私はEconomics HLをKISTで取りましたが、今大学で経済学をとっていますが、とてもよい準備になったと思います。クラスでディスカッションするアイデアの多くはIBで学んだものと多少オーバーラップしています。まったく同じトピックではありませんが、教授が何か新しいトピックを取り上げても、私にはすでにしっかり基礎を固めた知識があるので、みんなが何をいっているのかがすぐにわかります。

Mr. Thomas:

振り返ってみて、何か変えたかったこと、やりたかったことはありますか？

Yurika:

もっと本や新聞を読んでおきたかったです。今とっているコース、特に社会科学系のクラスでは課題図書を読み込んだり、今現在起きている社会問題についてディスカッションしたりします。KISTにいたとき、私は理系科目に重点を置いていたので、授業以外の本を読む時間があまりとれませんでした。



Mr. Thomas:

今の生徒に向けて一つアドバイスするとしたら？

Yurika:

もっと社会との接点をもちましょう。クラブや委員会など、何か学校でできる活動に加わるべきだと思います。ただ勉強するだけでなく何かに参加することが重要だと思います。入学審査の面接や大学で先生方と接する際の話題のきっかけとなり、その後のつながりも楽になります。

Mr. Thomas:

今日は質問に答えてくれてありがとうございます。とても感謝しています。最後に生徒や保護者に向けてひとことお願いします。

Yurika:

最初、私はベストチューデントとは言えず、10年生になるまで自分で思うような成績をとることはできませんでした。ですので、今の生徒には、ありがたい自分になるためにリカバリーしたり向上したりするのに、いつでも、もう遅い、ということはない、ということ覚えておいてほしいとおもいます。



2019年4月入学式の日PEAK 2023クラス (Yurika, Chaehyun中央, Jinil後列中央)



Yurika 2019年秋の東大駒場祭 フードブースにて